地域とのコミュニケーション情報発信紙

敬老園便り

特別号
令和3年
7月1日発行

【編集・発行】敬老園本部／〒386-0027 長野県上田市常磐城2256-1 2F　TEL.0268-28-1170（代）



敬老園の理念

少子高齢化の進展に伴う様々な問題に、地域に根ざした社会福祉法人として三つの理念を掲げ、役職員が一丸となり社会貢献を致します。

敬老園は人間の尊厳を大切にし、柔軟な心をもってあらゆる可能性のある質の良い介護を目指します。

敬老園は公平公正な施設運営を旨とし、変化する時代を的確にとらえ社会に貢献する健全な経営を目指します。

敬老園は心と心の結びつきを基本とし、取り巻く全ての関係を誠意と熱意をもって構築することを目指します。

このたび、令和3年6月18日をもちまして、
斎藤俊明が理事長を退任し、会長に就任いたしました。
新理事長には斎藤剛志（たけし）が就任いたしましたことを
ご報告申し上げます。

理事長退任及び会長就任の挨拶



夢を追い共に歩んだ多くの家族（職員）、幸せな職業人生に感謝

敬老園創設者の斎藤正美前理事長の死去により、平成14年9月から18年余の長期間、理事長職を勤めさせて頂き心より感謝申し上げます。今後は、新設の会長職にて斎藤剛志新理事長を中心とする新体制をサポートする役割を担います。今後とも、私同様新体制を宜しくお願い致します。

前理事長が、病院勤務時に高齢の脳卒中入院患者が、退院先を家として望んでも、家人が拒否する「家族の断絶」が多いことに心を痛め、特別養護老人ホーム（以後：特養）を建設した「志」に、現在をどのように評価されているか?

私が敬老園に赴任したのは、冬季長野オリンピック開催の平成10年8月。前理事長の健康が優れないことから退職を決意しました。JA長野厚生連を退職し、常勤の専務理事として着任致しました。着任時、特養定員110人、短期保護12人。旧丸子町指定管理の通所介護1ヶ所でした。

介護保険制度施行、1年半前のことでした。制度は、「措置から契約」、「運営から経営」にと、意識改革が求めており、職員に制度を理解してもらう為に「熱意と時間」を要しました。翌平成11年5月、西内敬老園特養110人のうち50人分を特養しおがわ敬老園に分割し開設。

以降、介護保険の基盤整備を先取りしスピード感を持って、7つのライフステージ（医療・介護・食育・教育・保育・生きがい対策・住まい替え）を掲げ、積極的に事業展開をし、2021年6月現在、7市1町（長野市、松本市、上田市、佐久市、安曇野市、中野市、千曲市、軽井沢町）で、職員1,200人、利用者1日3,600人、事業収入年間70億余に成長致しました。

松本の浅間温泉で、日本で初めて温泉旅館を高齢者住宅・介護事業所に用途変更。久米宏氏のニュースステーションでも放映されるなど全国から注目されました。ほかにも温泉旅館、割烹料理屋、廃院を認知症のグループホームに変えるなど「ある資源

の活用」にも努めました。

本部を西内（旧丸子町）から上田の市街地へ移し、事業地の多くを人口が多くて交通の便の良い街中に展開。ドミナント戦略（重曹的）、介護のスーパーマーケット化（選べる介護サービスメニュー、安価、質の高い）、コンパクトシティ造りに取り組んで参りました。

東信地区最初の介護福祉士養成施設を平成18年4月に開設し、360名の生徒を輩出しましたが今年3月、生徒が集まらないので残念ながら閉設しました。

少子超高齢化の進展に伴い、人材不足が深刻化一方下外国の人材に依存せざるを得ませんが、敬老園が、EPA（経済連携協定）によるインドネシア・ベトナム人受け入れてきた経験から、過度な期待は危険。あくまで日本にくることは「出稼ぎ」、契約期間が終わったら割り切っていなくなります。「お金がすべて」恩義・お礼奉公という考え方は全く持っていない国民性。高額な投資を体験しているので、受け入れは慎重にされること。コロナ禍、借金国債が大幅に増える中、社会保障費削減は待ったなし。生き残りが大変な時代を迎え一層難しいかじ取りの時代となりました。

今後も、法人役職員が利用者・地域住民の視点で、皆様が生涯安心して生活していただける地域づくりを推進していく所存でございます。より一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

会長 **斎藤 俊明**



理事長就任の挨拶

この度理事長を拝命し、重責に身の引き締まる思いですが、就任にあたり一言ご挨拶申し上げます。

法人開設から今日に至るまで多くの皆様にお力添えを頂き感謝申し上げます。歴代の理事長ほか先輩各位が導かれた「あって良かった敬老園」を推進して参ります。

新型コロナウイルスの感染拡大下でも対人関係で成り立つサービス業、昨年2月からコロナウイルスの報道以降、緊張感を持って感染予防に取り組んで参りました。

コロナ対策に要した莫大な費用は、社会保障費削減にも影響してくることも想定され、介護人材不足も相まって今後一層厳しい環境となるでしょう。

最後になりますが、この法人がこれからさらに成長していくため、全身全霊を尽くして参りますので、変わらぬご支援の程引き続きよろしくお願い申し上げます。

簡単ではございますが、就任の挨拶とさせていただきます。

理事長 **斎藤 剛志**

組織図

※令和3年7月1日現在

